

不妊治療を受ける患者が薬剤師に求める支援内容について

前田優磨¹、小松原千暁¹、岡村太郎¹、福田愛作¹、森本義晴²

1) 医療法人三慧会 IVF 大阪クリニック

2) 医療法人三慧会 HORAC グランフロント大阪クリニック

【目的】 不妊治療を受ける患者が医師や看護師などの医療従事者に求める支援内容についての報告は散見されるが、薬剤師に求める支援内容を明らかにした報告は見られない。本研究では、不妊治療を受ける患者が薬剤師に何を求めているのかを調査し薬剤師独自の支援方法を検討した。

【方法】 当院で 2021 年 10 月に胚移植を実施した患者 157 名に選択回答および自由記述のアンケートを紙媒体で配布し、院内ポストへの返信を依頼した。倫理的配慮を行い、回答は自由意志であり結果を学会発表する事をアンケートに記載した。

【結果】 アンケートは 155 名から回答があり、そのうち選択回答に欠損のない 143 名（有効回収率 91.1%）を分析対象とした。不妊治療において薬剤師に求める支援内容として「薬の用法用量、使用方法、開始日や服用期間の詳細な説明」、「副作用の詳細な説明」、「副作用が出た場合の対応・相談」、「薬の効果や、なぜ薬を服用するかの詳細な説明」および「妊娠前後に薬を服用した場合、胎児への影響についての情報提供」に対して 90%以上が、治療の「意思決定支援」および「精神的・心理的支援」についても 50%以上が「とても必要と思う」または「少し必要と思う」と回答した。また、不妊治療で薬を使用することに対し不安はあるかという質問に対し 36.4%が「とても不安がある」または「少し不安がある」と回答し、治療期間 1 年以上の群では 1 年未満の群と比べ不安があると回答する割合が有意に増加していた（ $p < 0.05$ ）。

【考察】 不妊治療を受ける患者は薬剤師に対し薬剤に関する専門的な知識の情報提供だけでなく、治療の意思決定および精神的・心理的支援まで求めていることが示唆された。今後は薬剤師も異職種の勉強会に参加し、薬剤情報提供時に少しでも患者に寄り添えるようなスキルの向上に努める必要がある。また長期治療患者に対する薬剤情報や、胎児に対する影響などの多角的な資料の配布にも取り組みたい。